

施策（二次）評価シート（案）

《健康領域：社会の健康》 基本目標 6：豊かな心を育むまち

個別目標 6-1 「いつでも学べる場と機会を充実する」

構成する めざす成果	6-1-1 「生涯学習に取り組む人が増えている」	
	主な取り組み	文化芸術や育児等幅広い分野の講座の開催、生涯学習ねっとわあく制度による講師の紹介、学習団体による自主企画講座の企画運営の支援など
	6-1-2 「読書をする人が増えている」	
	主な取り組み	利用者リーズを踏まえた図書館の蔵書の充実、子どもの家読の推進、図書館見学や一日図書館員等体験学習の場の提供など

前回の評価結果（平成 21～23 年度分）

成果を計る主な指標の「市民一人あたりの学習センター年間利用者数」及び「市民一人あたりの年間図書貸出冊数」については、計画策定時に比べ、いずれも実績値が上昇しています。これらは、学習センター施設の整備、改修によって利用者の利便性の向上を図ったことや、図書館の蔵書数を増やすなど、市民が必要とする事業が実施されてきたことによると考えられます。また一方では、学習センター、図書館それぞれの利用者に固定化の傾向がないか懸念されることから、今後は、できるだけ多くの人々に利用機会を提供するため、隠れたニーズを掘り起こすなど、新たな視点による事業展開も必要と考えます。特に、大和駅東側第 4 地区に予定している公益施設の建設により、生涯学習に取り組みやすい状況をより多くの市民に提供していくことが重要と考えます。なお、経済状況が厳しい中では、就労に繋がるような実用性の高い講座の開設、例えばボランティア講師による英会話の学習機会を設けるなどを検討することも必要と考えます。

追加の評価（平成 24～25 年度分）

市内に 5 館ある学習センターについて、計画策定当初から、成果を計る主な指標の「市民一人あたりの年間利用回数」は増加していましたが、平成 23 年度以降は減少に転じており、より多くの人に利用されるよう取り組みを一層充実させる必要があります。

成果を計る主な指標の「市民一人あたりの年間図書貸出冊数」が前回の評価時から上昇し、平成 25 年度の最終目標値を上回っています。毎月 23 日を家読（うちどく）の日と定め、家庭における読書を推進するなど、こども読書力向上プランに基づく様々な取り組みを展開したほか、市内公共施設等へ設置している図書返却ポストの増設をはじめとする利用環境の向上に取り組んだことが、効果を現わしているものと評価することができます。

今後の施策展開に向けて

生涯学習に取り組む人を増やしていくためには、市民ニーズを的確に把握しながら学習センターにおいて魅力ある講座等の開催を促すなど、幅広く、気軽に利用できる環境を確保していくことが求められます。また、大学等との連携や交流を図ることで、新しい取り組みの創出や若い人の参画などが期待できます。

豊かな心を育むうえで、子どもから大人まで、連続して読書に親しむことが期待されます。市立小中学校では、図書館リニューアルや司書の全校配置など、読書活動の推進が図られていますが、家読（うちどく）の推進には学校も大きな役割を果たすと考えられるため、図書館と学校による連携を一層強化していくことが求められます。また、図書館の蔵書を充実していくにあたっては、思春期・青年期の子どもたちが読むことによって発達に資する、いわゆる「YA（ヤングアダルト）」図書についてもコーナーの設置を検討してください。

生涯学習センター及び図書館については、大和駅東側第 4 地区市街地再開発事業によって、文化創造拠点へ新築移転することになりますが、市民にとって魅力的で「いつでも学べる場と機会」を提供できる施設となるよう、運用面の充実に取り組んでください。